

## 総合バックオフィス サポーターとして業界を牽引



ビジネスブレイン太田昭和は2030年に売上高1000億円を目指すビジョンを掲げ、新中期経営計画「BBS2026」を策定。公認会計士が起業した同社は、コンサルティング、システム開発、マネジメントサービス(BPO)の3事業を一貫して提供する強みを活かし、総合バックオフィスサポーターとして地位確立を目指す。

## M&AとBBSサイクルで事業強化

同社は、会計の専門知識を基盤に、業務プロセスの上流から下流まで一貫してサポートする「BBSサイクル」という独自のビジネスモデルで、顧客企業が抱える経営課題の解決に寄与できることが強みである。定型業務にはAI等を活用し、専門業務には難易度の高い業務に精通した人材を配置するなど、効率化と高付加価値化を両立させている。さらに、M&Aにも積極的な姿勢を見せている。2023年にCAD/PDMシステムを受託開発を行うフレスコ社、2024年1月にITインフラとBPOに強みを持つトウインクル社を買収。同年8月にはNTTデータインフラマートとの資本業務提携も実施。これらの動きは3事業の連携をさらに強化し、顧客の多様なニーズに対応する総合力を高めている。

## DXと人材戦略で成長基盤を強化

同社は新中期経営計画「BBS2026」において、DX推進と人材育成を成長戦略の柱に据えている。具体的にはAI、クラウド、RPAなどの新技術を活用した新しいサービスの創造や、データドリブン経営の実現を掲げている。また、3年間で22億円以上の人的資本投資を計画し、専門性の高い人材の育成に注力。特に、女性管理職比率を2026年度までに24.4%に引き上げるなど、多様な人材の活躍を積極的に推

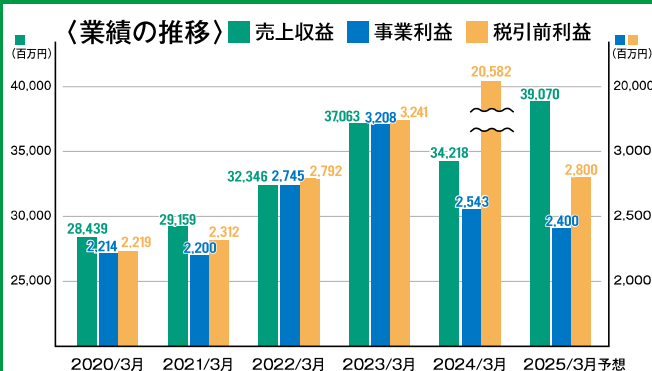
## ESG経営の推進と株主還元の両立

進んでいる。これらの取り組みによって、2026年度には売上高580億円、事業利益50億円の達成を目指す。またBBSサイクル率(3事業分野のうち2事業以上を提供している顧客の売上比率)を40%まで高め、顧客との長期的な関係構築と高付加価値サービスの提供を追求している。

同社は、ESG経営の推進にも注力している。環境面では、2030年度までにCO2排出量を2019年度比30%削減する目標を設定。また、顧客企業のサステナビリティ経営支援にも取り組んでいる。ガバナンス面では取締役会の実効性向上に加え、役員報酬へのESG評価の反映を進めている。株主還元につい

### DATA

注:データは2024年9月6日時点



株価 **1,823円** / 配当利回り **4.28%** (今期予想)

### POINT

2024年3月期の配当は一時的な損益項目を除く連結配当性向40%を原則とする新方針のもと、1株当たり75円。2025年3月期は78円(中間配当37円)を予定している。株主優待は100株以上を保有し、かつ、保有継続期間が1年を超えた株主を対象として、毎年3月末日の所有株式数に応じてオリジナルのQUOカードを贈呈。

### DATA

株式会社  
ビジネスブレイン  
太田昭和 (東ブ・9658)

東京都港区西新橋1-1-1  
日比谷フォートタワー15F



詳しくはこちら

ては、一時的な損益項目を除く連結配当性向40%を原則とする新方針を導入し、積極的な還元姿勢を示している。2024年3月期は年間配当75円を実施。新中期経営計画では、ROE12%のほか、ROIC10%達成を目指すし、M&Aや新規事業開発にも積極的に投資を行う方針。3年間で最大130億円のM&A投資を計画するなど、成長と還元のパランスを取りながら、顧客の企業価値向上に貢献している。